

## [部門企画] 部門講演会 No. 08-57 講演会および見学会レポート 技術と社会の関連を巡って:過去から未来を訪ねる

2008年11月20日(土)と21日(日)の2日間、標記の行事が、西日本工業大学小倉キャンパス(福岡県北九州市小倉北区)および北九州市で開催されました。講演会は昨年度同様に日本設計工学会に共催をお願いし、さらに西日本産業貿易コンベンション協会の協賛を頂きました。初日が学術講演会、2日目が北九州地区の機械遺産と門司港レトロ地区の見学会としました。

初日は、台風の進路の影響が気掛りでしたが、多くの皆さんの参加を得て、スタートできました。講演は2教室に別れて実施しました。

「技術教育・工学教育」が6件、「設計教育・CAD教育(I)と(II)」で計7件、「エネルギー教育・環境教育」が6件。「機械技術史・工学史(I)と(II)」で計8件。全体で27件の研究発表があり、活発な討論が行われました(詳細は<http://www.jsme.or.jp/tsd/kouen/program2008.html>または会誌2008年8月号115頁をご覧ください)。本講演会のキャッチフレーズどおり、時空を超えて広い範囲から技術を眺めて考えることの重要性を改めて感じました。また会場廊下では、産業遺産の本やミニチュア発動機の展示も行いました。なお、お昼休みを利用して、部門運営委員会が開催されました。夕方から希望の方だけでしたが、会場近くの北九州市文学館に展示してある2008年度機械遺産の「自働算盤」(日本最古の機械式計算機)を見学しました。

全ての講演が終わった後、近くのホテルにて懇親会を開催、吉田部門長と設計工学会・朝比奈会長の挨拶で始まり、小野寺副部門長の司会を得て、和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。

2日目は、貸切バスで北九州市に残る機械遺産の見学のツアーを行いました。まず、八幡では製鉄発祥記念の東田高炉を眺めながら、イノベーションギャラリーの実習場を見学、北九州市マイスター制度の話も聞くことができました。次の安田工業では、辰野金吾設計の工場と日本最古の製釘機を見学、また最近開発された釘の話も伺いました。この後、戸畑の九州工業大学を訪れ、野外展示されているバックトン万能試験機などの創立当時の実習用機械群の間を散策。その後門司に移動し、門司赤煉瓦プレイスにて、関門海峡を眺めながら名物の焼きうどん付のお弁当を美味しく頂きました。



写真1 講演会風景



写真2 見学風景(安田工業・日本最古の製釘機)



写真3 見学会記念写真(門司麦酒煉瓦館)

午後は、煉瓦造りの旧サッポロビール醸造棟と門司麦酒煉瓦館を見学、ビヤホールでノドが潤せるともとの期待していましたが、改装中で残念でした。この後、門司港レトロ地区にある NTT 電気通信レトロ館で大正から昭和にかけての電信・電話器展示を見学、特別に大型のリレー式交換機を動かして頂きました。最後に九州鉄道記念館を訪れ、蒸気機関車をはじめとする鉄道記念物について、第一人者の堤先生に解説を頂きました。なお、移動のバスの中では産業遺産研究家の市原猛志さんに解説をお願いし、北九州市の産業の歴史について逸話を交えながらお話をして頂きました。

多少盛りだくさんの感がありましたが、北九州地区が日本近代化に果たした役割を、多くの機械遺産が自ら語ってくれたのではないのでしょうか。また、現地で実際に物を見ながら皆さんで議論できる、そんな楽しさもあったと思います。

今回は、講演会と見学会と組み合わせて地方で実施との提案を受けて計画しました。吉田部門長、事務局加藤さんと協力して実施しましたが、本学で機械学会の催しが行われるのは初めてで、不行き届きの点もあったと思いますが、どうやら盛況に終えることができました。各行事に参加頂いた多くの皆さん、見学先の担当者の皆さん、さらに運営にご協力を頂いた西日本工大の皆さんに感謝申し上げます。なお、西日本産業貿易コンベンション協会から補助金を頂いたことも付記致します。

池森 寛（西日本工大）